

これで勝負!

大消費地にいどむ

首都圏農業

161

さいたま市 萩原哲哉さん

【埼玉】さいたま市緑区の「ファーム・インさぎ山（萩原哲哉代表、40）」では、かつて多くのサギが営巣していた豊かな自然を活かし、農業体験を行っている。モットーは「農家の良さを伝えたい」だ。

ファーム・インさぎ山の経営規模は水田1畝、畑1畝。畑には約100品目の野菜を生産しており、哲哉さんと創業者で母のさとみさん(77)、

農業体験イベント年300回

従業員2人、パート2人で運営している。これまで実施した農業体験は100種類以上。年間で収穫体験や味噌造りなど200〜300回もの体験イベントを実施しており、県内外からの参加者で年中にぎわいを見せる。農家の暮らしを心ゆくまで満喫できると世代問わず人気だ。料は一切使っていない。「参加者の喜ぶ顔が見られ、哲哉さんは「農業が二因



萩原哲哉さん(左)とさとみさん

るので、やっていて自分自身も楽しい」と話す哲哉さん。そんな姿にさとみさんも「中心になって頼もしい」と笑顔で顔を浮かべた。ファーム・インさぎ山では農業、化学肥料、農薬を駆使しながらの暮らしの魅力をより多くの人に伝えていきたい。併せて販売や出荷用の生産にも力を入れたい」と語る。